

## 札幌市立三角山小学校の取組【環境：地域・外部人材活用】

### 1 研究のねらい

校名が示すように、三角山は本校の象徴であり、特色でもある。開校して 39 年。これまで 2000 名以上の子どもがこの山を学び舎として育ち、巣立っていった。小鳥たちのさえずり、風でざわめく草木、山登りを愛する人たちの挨拶の中で、子どもたちの情操が培われ、社会の一員となった今でも卒業生の心のよりどころとして位置付いている。そこで本校では、札幌市の教育の目指す人間像である自立した札幌人に迫るべく、札幌らしい特色のある自然環境を活用し、一人一人が地域の人々と関わりながら、ふるさと札幌に対する愛情を育むと共に、美しい自然・環境を守ろうとする態度の育成を目指した。

### 2 取組内容

#### (1) 総合的な活動の時間

##### ①大好き！三角山！！

4 年生の総合的な活動の時間は、春夏秋冬に渡る一年間の四季を通して三角山で活動するカリキュラム構成となっている。まだなごり雪が見られる啓蟄、長い冬から目覚めた草花の芽や蠢動する虫たち。まずは三角山の環境に素直に触れ、体感していくことを重視し、実践を進めていく。夏、風薫る濃緑の中。汗をかきながら、自分で選んだ観点や視点に沿って調査活動を行う。多くの子どもたちが自然を観点にして取り組む中、三角山に関わる人々を観点にして活動する子もいる。秋、黄金色に染まった山に登りながら、友人と、地域の方と関わることで、自分の考察を深めていく。そして山が白銀に覆われ始める頃、今まで取り組んできた成果を保護者、地域に向けて発表する。それから更に学びを深めようと、冬山にも意気揚々と挑んでいく。

##### ②ふみの日登山

三角山では毎年山の手まちづくりセンターが主催する「ふみの日登山」というイベントが行われている。これは山頂に臨時のポストを設置し、投函したはがきなどに三角山の山頂に生息するキアゲハをかたどった特別な消印を押して、送付先に届けるというものである。本校ではこの時期に合わせて登山を行っており、子どもが、山頂に待機しているまちづくりセンターの所長に、子ども質問するなど、触れ合いが見られた。



この取り組みを通して、子どもの関心を人へと向けるきっかけにすることができた。

##### ③ボランティア会の講義

2 学期に入り、三角山のことにも詳しくなってきたころ、三角山ボランティア会の方を招き、山の自然や登山で注意することなどの講義を聞いた。図鑑などでは分からない植物の生態をはじめ、三角山ボランティア会は、山の手まちづくりセンターに所属

し、登山道の清掃や道案内の表示札の取り付けなどを行っていることなど、詳しい説明を聞くことができた。

#### ④「三角山発表会」

総合で取り組んできた成果をまとめ、発表する三角山発表会を行っている。この会に保護者やまちづくりセンターの方を招待した。まちづくりセンターの方は都合により当日は欠席となったが、後日、子どもがプレゼンテーションに使用した資料などを見学するため来校した。まちづくりセンターの方で三角山発表会の際に使用した資料をホームページ上にアップした。



#### (2) 環境問題について学ぼう

##### 聖心女子学院の生徒によるプレゼンテーション

聖心女子学院では、生徒が調べたことを小学校や中学校を訪問して発表する授業を行っている。今回は、聖心女子学院の生徒が環境問題について作成したパワーポイントによる資料を見ながら学ぶ授業であった。ときおり、クイズも交えながら分かりやすく説明してくれた。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

自然に対する愛情を育むためには、何度も何度も事象に関わり、しっかり浸るといった取組は欠かせない。本校4年生は、年8回三角山を登ることで、単に近くにある山から自分たちの山へと子どもの意識が変わってきた。三角山に生息する虫や花等の生き物の調査を足掛かりにして、天然記念物、公害、絶滅危惧といった環境問題へも関心が向いていった。さらに、三角山を愛する人々の営みに触れることで、三角山は地域にとって大切な存在であるという意識へと高めることができた。

また、聖心女子学院の生徒による環境学習については、子どもたちは地球規模で問題になっている事柄を、既習の三角山の調査活動と照らし合わせながら、身近な問題としてとらえることができた。



#### (2) 課題

三角山の自然は大切なものであるという意識までは育むことができたが、守っていかうとする行動化へつなげていくことには難しさを感じた。ただこの子どもが三角山での学習を礎として、将来ふるさと札幌に愛着をもつことになるであろうという実感を抱くことができた。